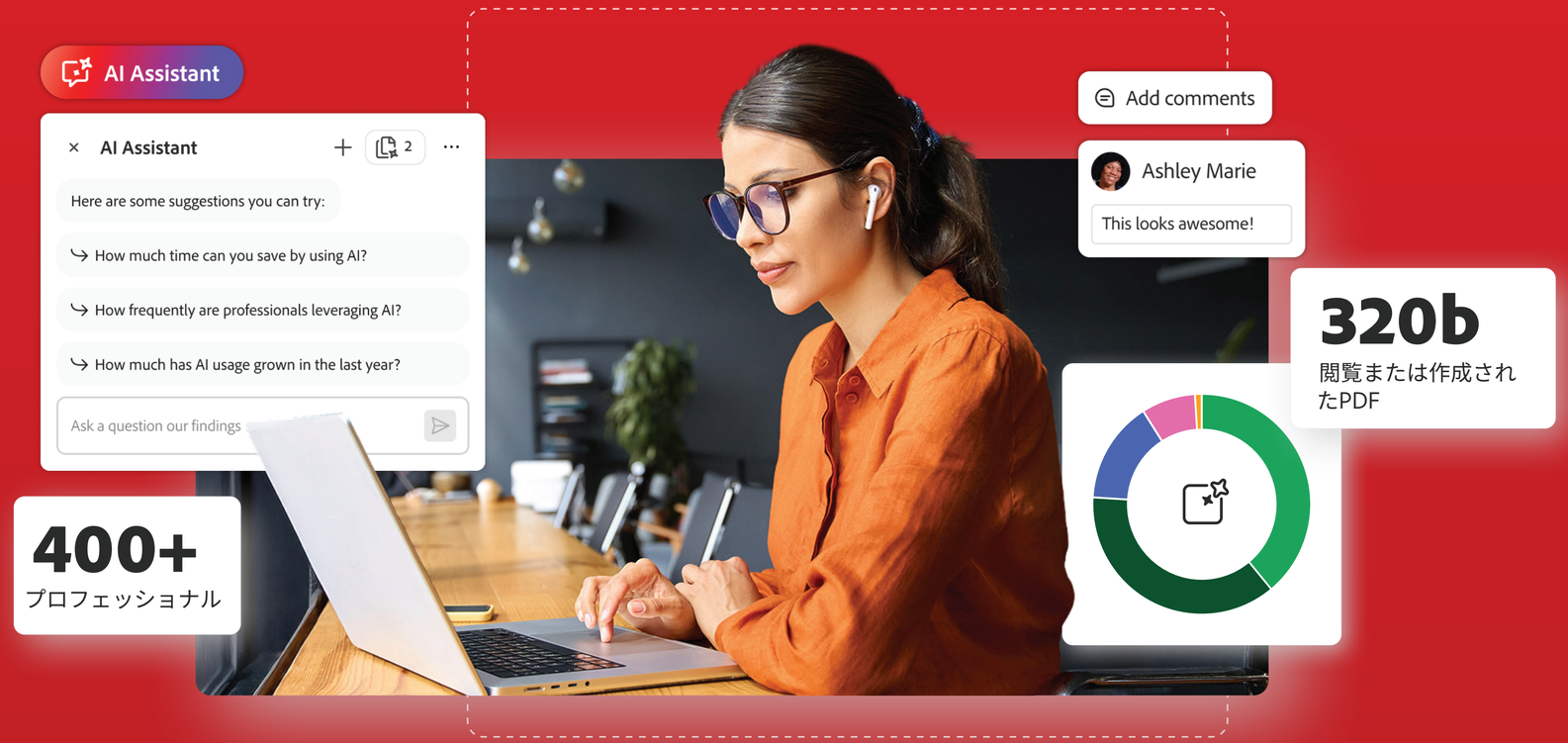
Adobe DIGITAL INSIGHTS



ドキュメントにおけるAIの現状：

AIが働き方を変革、利用率が371%急増

+371%

ドキュメント内でのAI活用の増加率*

複雑なベンダー契約書を想像してみてください。何ページにもわたる法律用語を読み解くことなく、重要な義務と期限を数秒で抽出できるとしたらどうでしょう。あるいは、多国籍企業の財務文書を、複数の市場向けに瞬時に翻訳できるとしたらどうでしょう。高度な言語や文化の講座など必要ありません。

世界中のAdobe Acrobatユーザーは、これまで以上にAI機能を活用しています。過去12か月だけで閲覧されたり作成されたりした**3200億以上のPDFファイル**や、署名された**80億以上の文書**において、単に情報を取得・解釈するだけでなく、情報を変換するためにAI機能がますます活用されています。

実際、プロフェッショナルの4人に3人以上が1年前よりもAI活用が増えたと回答しており、約半数(47%)は「格段に増えた」と答えています。AIの進化とともに、個人の役割からビジネス全体に至るまで、ドキュメントワークフローの管理方法が根本的に変わりつつあります。

最新のレポートでは、匿名化および集計されたAcrobatデータと、**400名以上のプロフェッショナル**を対象とした調査からの知見を分析し、ドキュメント活用の変化とAI利用の急速な拡大を分析しています。主な発見は次のとおりです。

*2024年11月～2025年11月(Acrobat) / **2025年2月～11月(Acrobat、米国)

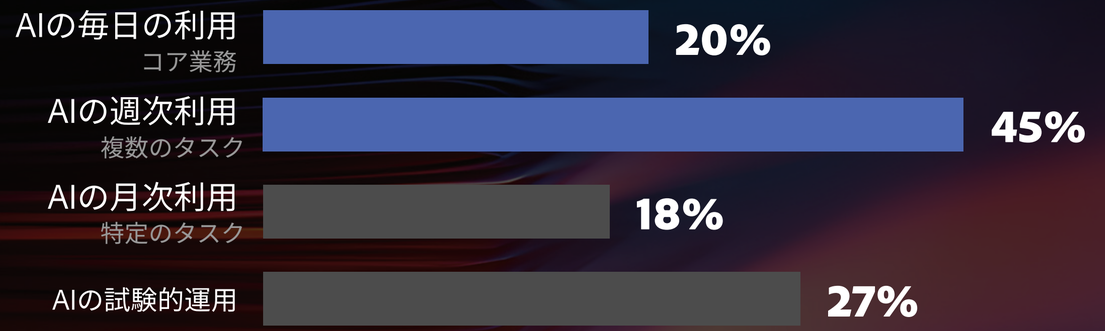
主要インサイト:

- AcrobatワークフローにおけるAI活用は、前年比**371%増***という驚異的な伸びを記録し、関心と成長が急加速しています。
- **財務書類(+347%)**は、あらゆる書類の中で最も急速に増加しており、法務(+281%)、人事(+261%)**がこれに続いています。
- プロフェッショナルの過半数(55%)が週1回以上AIを活用しており、**5人に1人は毎日利用**しています。部長・VP職がその普及を牽引しています。
- プロフェッショナルの約半数(48%)が週4時間以上、**15%は丸1日分(8時間以上)**の時間を節約しています。生産性の大幅な向上を示す結果です。
- 情報の検索や要約を主な用途としながらも、ドキュメントの編集にAIを活用するケースが増加しており、**翻訳リクエストは+300%**と急増しています。**
- **セキュリティ、信頼性、互換性**といった主要な導入障壁は依然として存在するものの、承認されていないツール、いわゆるシャドウAIの使用は、技術専門家主導で広く行われています。

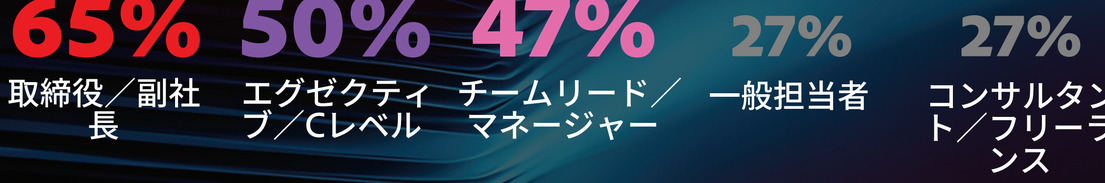
組織がAIポリシーを検討する一方で、AIの利用はますます普及し広がり続けている

AIの急速な成長を考えると、Acrobatワークフローへの AIの導入が前年比371%も急増したことは驚くことではありません。2025年11月時点で、AIツールはわずか12ヶ月前と比べて5倍も頻繁に使用されています。実際、現在では**プロフェッショナルの半数以上（55%）が毎週文書でAIを使用**しており、**5人に1人が毎日使用**しています。この傾向を牽引しているのは上級管理職によるものです。**取締役/副社長の3分の2とCレベルの半数が、1年前と比べて使用が大幅に増加したと報告**しており、これは他のどの役職よりも高い割合です。

多くのプロフェッショナルが毎週AIを利用

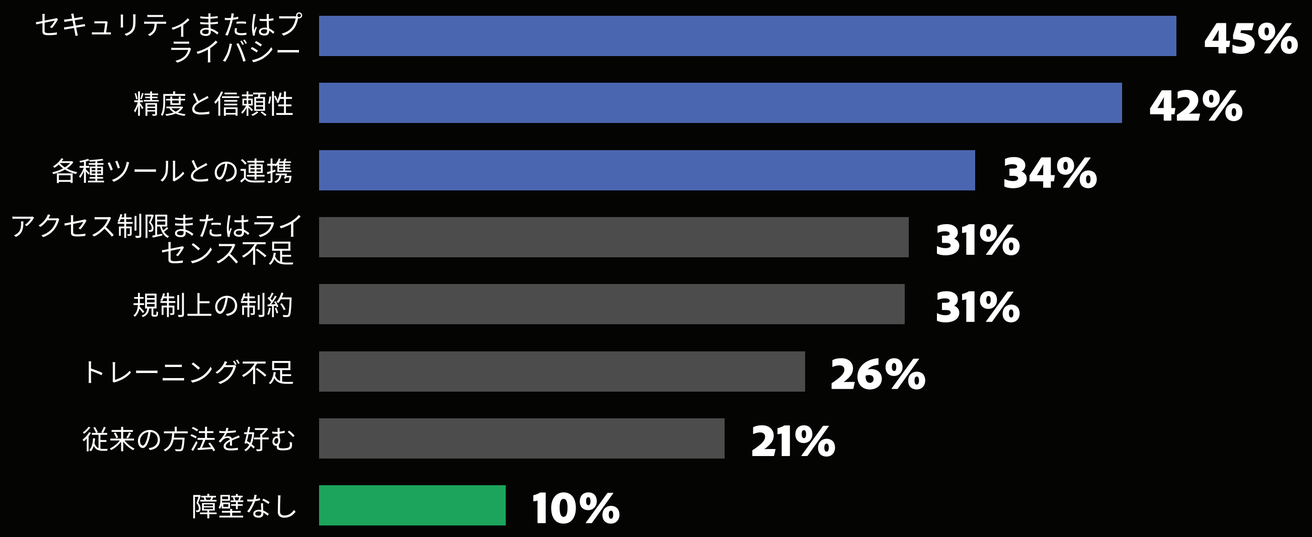


管理職・リーダー層がAI導入の拡大を牽引

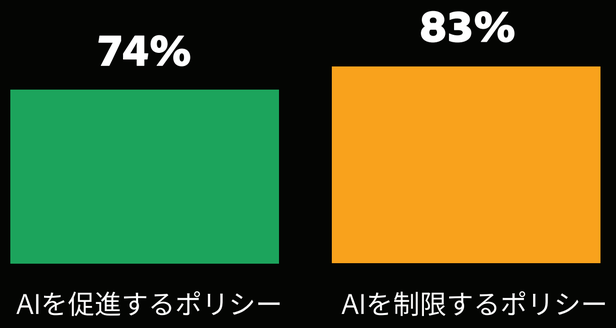


*400名以上のプロフェッショナルを対象とした調査に基づく /
**文書の種類別データに基づく

AI導入を阻む主な障壁



厳しいAIポリシーがシャドーAIの拡大を招く



しかし、AI導入への期待が高まる一方で、懸念も少なくありません。**プロフェッショナルの約半数（45%）がセキュリティ・プライバシーへの懸念をAIのさらなる活用における主な障壁として挙げており**、**出力への不信感（42%）**や**既存ツールとの連携の懸念（34%）**がそれに続きます。障壁がないと回答したのは10人に1人のみです。

企業の約3分の1（29%）は依然としてAI利用に制限的なポリシーを設けています。当然のことながら、こうした制限は従業員の反発を招いているようです。**企業が承認していないツール、いわゆるシャドウAIの使用は横行しており**、そうした制限的なポリシーを持つ企業での使用率は83%という驚くべき高水準に達しており、AIの積極的な活用を奨励している企業の74%を上回っています。

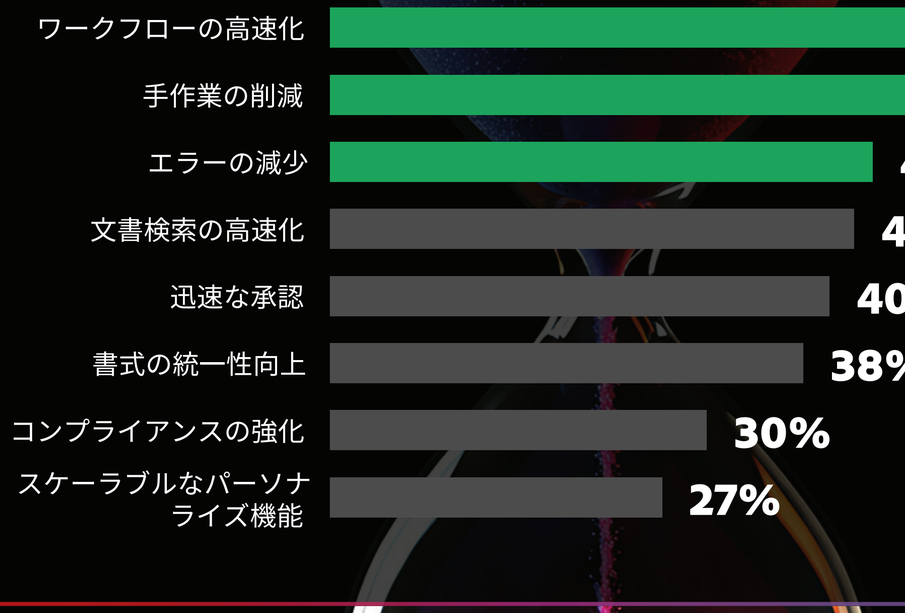
*400名以上のプロフェッショナルを対象とした調査に基づく

AIの積極活用で大幅に時間を節約し、週1日分の時短を達成するケースも

多くの働き手が文書業務のスピードアップを求めています。**半数以上（57%）がAIの最大の成果として作業スピードの向上を挙げており**、手作業の削減（47%）、そして意外にもエラーの減少（43%）がそれに続きます。

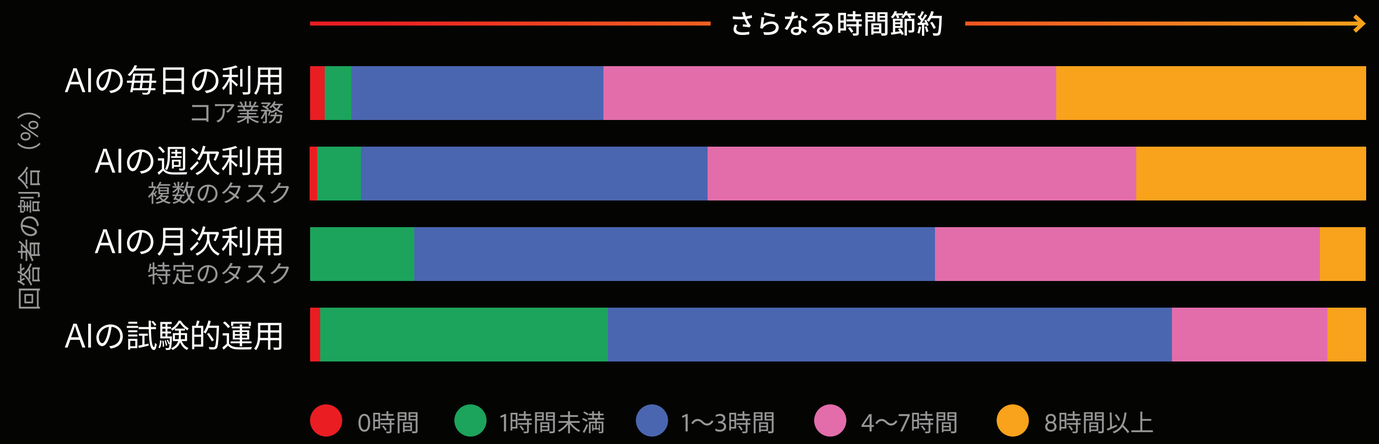
スピードアップはAIがドキュメント業務にもたらす最大のメリット

AIは文書業務を加速させることで、最大の価値を発揮します。

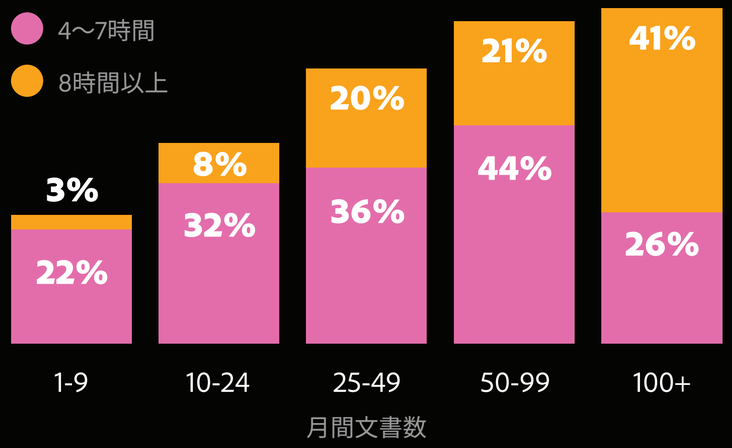


*400名以上のプロフェッショナルを対象とした調査に基づく

AI活用度が高いほど、時間節約効果も大きくなる



文書量が増えるほど節約時間も拡大



文書量が多いほど、AIがもたらす効果は大きくなります。

スピード、自動化、正確性といったあらゆる効果は、実際の業務時間の創出につながります。**約半数(48%)**が週4時間以上を節約し、15%は8時間以上（週40時間労働の丸1日分）を取り戻しています。

相関関係は明らかです。AIの利用頻度が高まるほど、節約できる時間も増えます。**AIを毎日使うユーザーは、たまにしか使わないユーザーに比べ、週8時間以上を節約できる可能性が8倍高くなります。**文書量の多さも同様です。月100件以上の文書を扱うユーザーは、少量しか扱わないユーザーと比べて**大幅な時間節約を実現できる可能性が14倍高い**とのことです。

*400名以上のプロフェッショナルを対象とした調査に基づく

情報検索だけでなく、要約・加工にもAIの活用が拡大

ドキュメント内のAIプロンプトの大多数(80%)は3つのカテゴリに分類されます。 **情報検索(38%)：情報の特定や説明、 解釈(22%)：統合や要約、 編集(20%)：再フォーマットや翻訳**

*Acrobatの利用データに基づく

スピードアップはAIがドキュメント業務にもたらす最大のメリット

AIは文書業務を加速させることで、最大の価値を発揮します。

38%
情報検索
文書内の情報の特定・抽出や特定の質問への回答

22%
解釈
情報の比較、洞察の導出、意味の説明

20%
編集
コンテンツの書き直し、再フォーマット、簡略化、翻訳

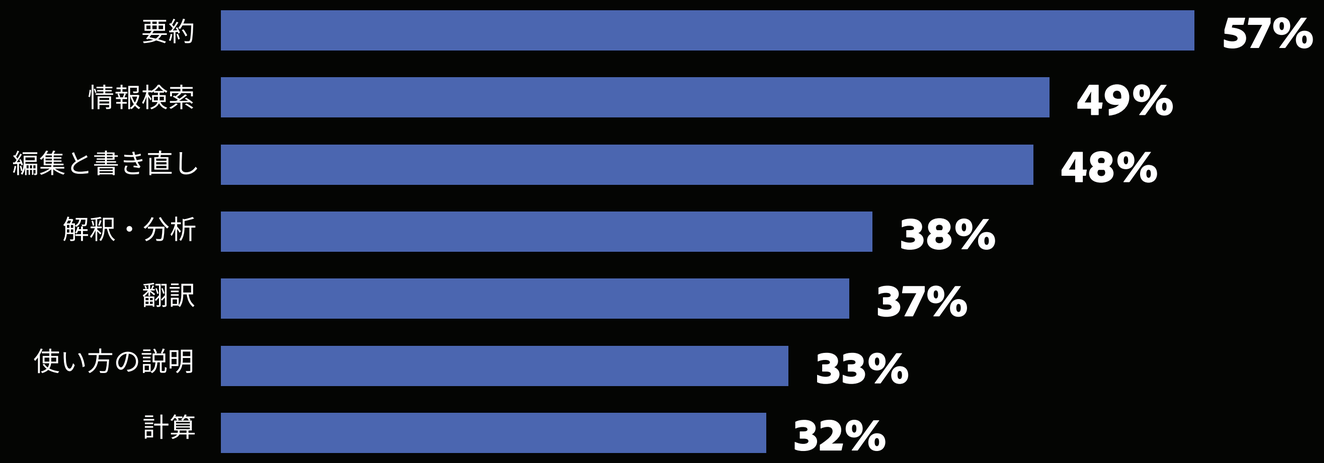
14%
ワークフロー
Acrobatで文書操作の実行や使い方の説明を求めること

3%
フォローアップ
前回の回答に対する補足や詳しい説明を求めること

2%
計算処理
単純なカウントを超えた高度な計算の実行

プロフェッショナルによるドキュメントへのAI活用法

プロフェッショナルはドキュメント業務でどのようにAIを活用するのか？



AIを活用したドキュメント操作の拡大

過去8か月間

3X

文書テキスト変換
におけるAI活用の拡大

+300%

文書テキスト翻訳
におけるAI活用の拡大

興味深いことに、これはユーザーが業務でAIをどう活用しているかとも一致しています。**過半数(57%)が情報の要約に活用**し、**約半数(48%)はAIを編集補助として**文書の確認や書き直しをすばやく行っています。2025年初頭以来、**文書テキストの変換利用はほぼ3倍に増加**し、**翻訳クエリは300%以上急増**しています。

ドキュメントにおいて、情報検索はAIのコア機能として定着しています。Control/Command+Fのような従来の検索機能が徐々に廃れていく兆しとして、約半数(49%)がAIをより速く効率的な検索ツールとして活用しています。このトレンドを牽引しているのは現場の担当者で、AI検索の利用ではディレクターやVPを上回っています。これは、編集から解釈、計算に至る他のすべての活用事例と比べても際立った傾向です。

*Acrobatの利用データに基づく

財務・法務・人事ドキュメントでAI活用が急増するが、プロンプトのパターンは大きく異なる

2025年初頭以降、Acrobatユーザーが高度な専門コンテンツを扱う機会が増えたことで、主要なドキュメントカテゴリ全体でAIの活用が急拡大しています。財務(347%)、法務(281%)、人事(261%)のドキュメントで特に顕著な伸びが見られ、管理業務(233%)やマーケティング(206%)のドキュメントでも大幅な増加が確認されています。

しかし、活用状況はドキュメントの種類によって大きく異なります。例えば財務ドキュメント(明細書や予算書など)では、計算などの技術的なプロンプトや翻訳プロンプトが多く使われています。一方、マーケティングドキュメントでは、複雑なキャンペーンデータやレポートを読み解くために、情報の検索や要約といった解釈系のプロンプトが多く見られます。

職種・業務内容によって異なるAI活用パターン

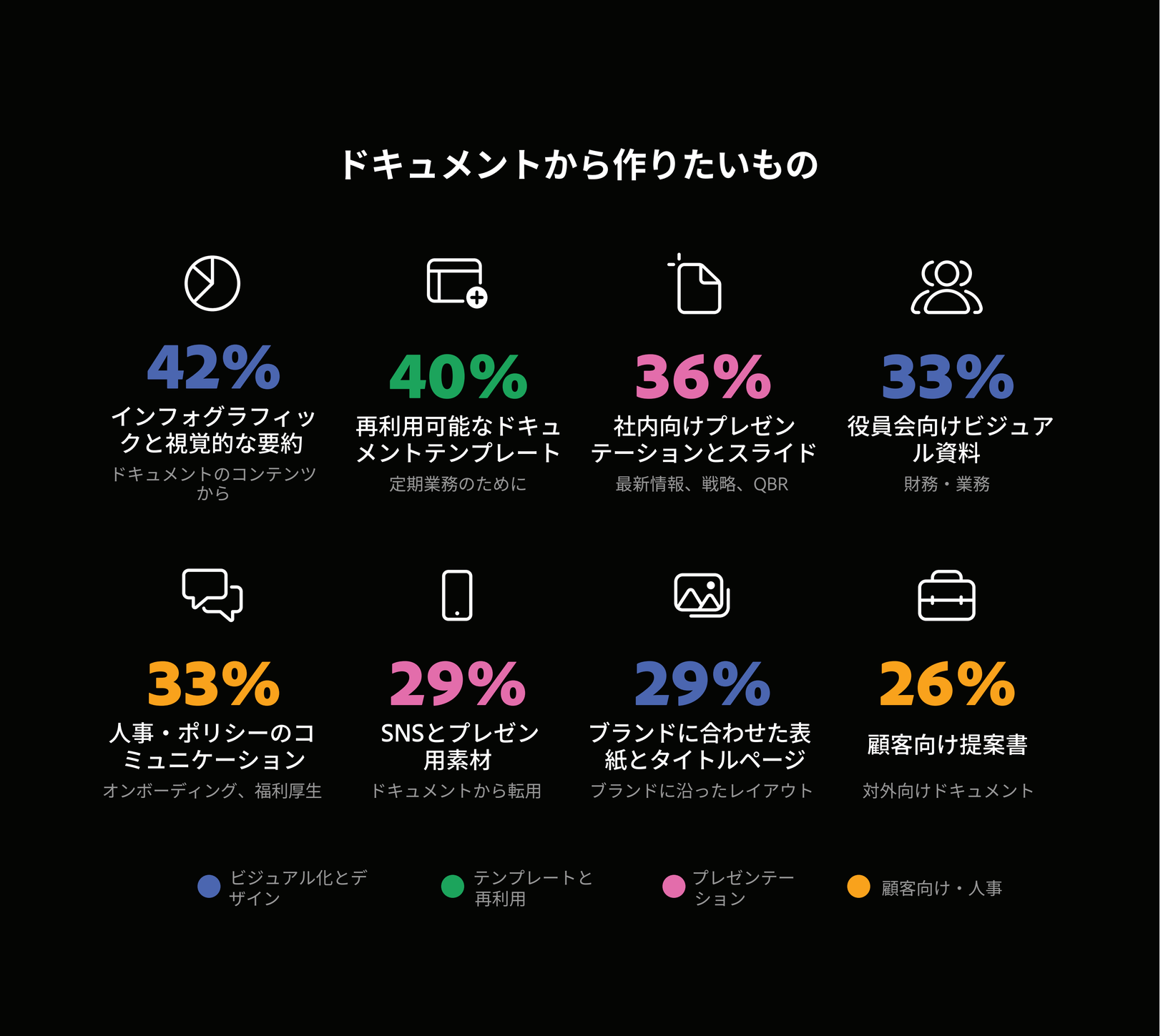
各部門は、ドキュメントの扱い方に合ったAIタスクを自然と選択しています。
文章作成や解釈から翻訳、要約まで、活用の幅は多岐にわたります。

営業
+14.9%
文章作成と編集でのAI活用が高い

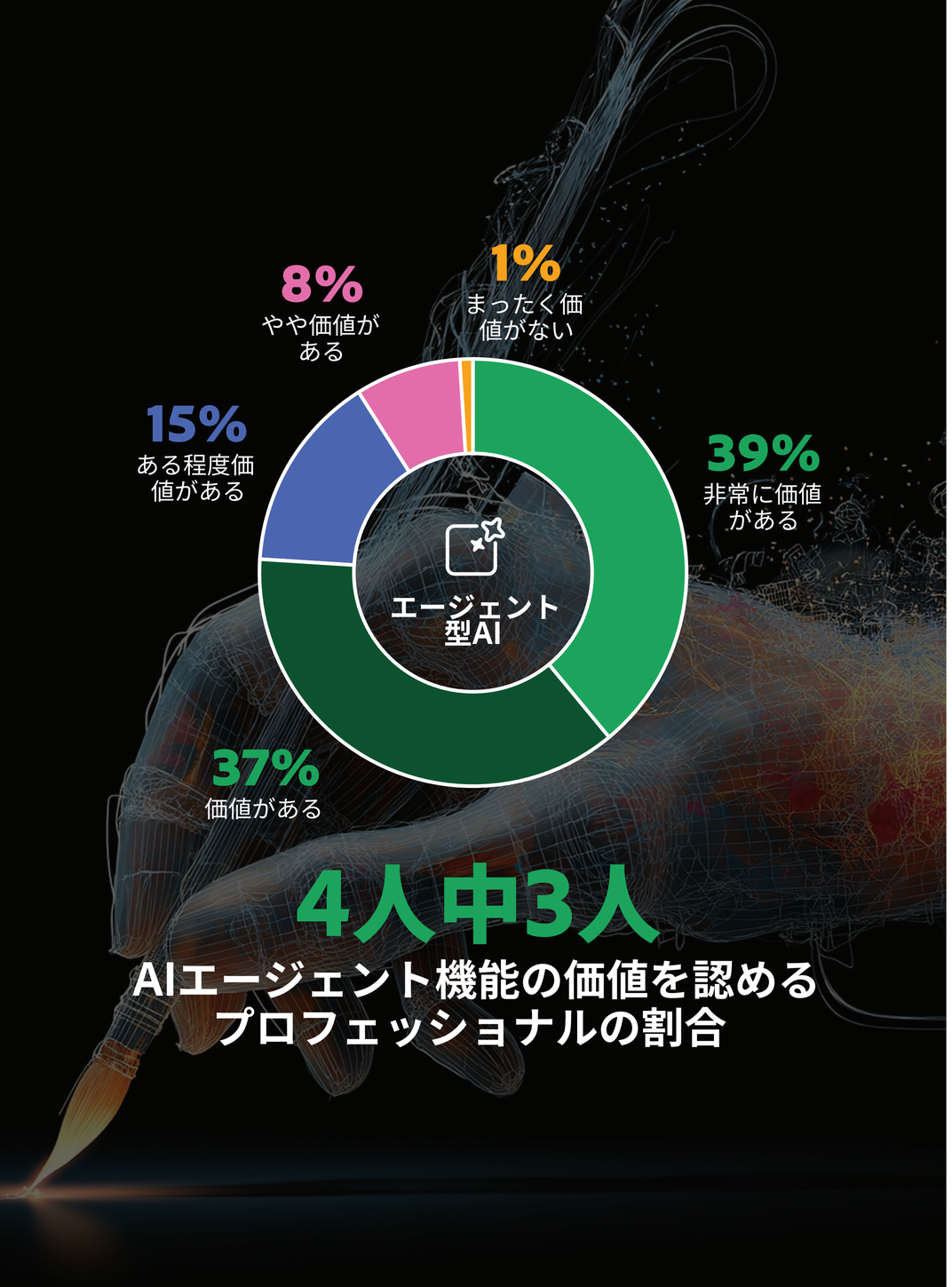
マーケティング
+17.6%
レポートやキャンペーンデータの解釈でのAI活用が高い

財務
+14.9%
翻訳と技術的なタスクでのAI活用が高い

人事
+10.0%
情報の要約でのAI活用が高い



しかし、活用事例全体を見ると、**プロフェッショナルの過半数(57%)**がドキュメントワークフローの「最終段階」であるデザインとプレゼンテーションに定期的なAIサポートが必要だと回答しています。主なニーズとしては、コンテンツをインフォグラフィックや視覚的な要約に変換すること、また繰り返し使う文書向けに再利用可能なテンプレートを作成することです。



重要ポイント：

AIはドキュメントワークフローの可能性を開くだけでなく、その力を完全に解き放つ

ドキュメントにおけるAI活用の加速は、一時的なブームではありません。学生であろうが高度な金融のプロフェッショナルであろうが誰であれ、働き方そのものを塗り替える世代を超える規模の変革です。AI活用が指数関数的に拡大する中、さまざまな業界のAcrobatユーザーがドキュメントとの向き合い方を急速に変えています。単なる情報検索の枠を超え、営業提案書の書き直しやデザイン、グローバルマーケティングキャンペーンの要約、重要な財務レポートの瞬時の算出など、情報の活用方法を根本から再定義しています。

高い生産性を生み出すこの進化は、すでに毎週数時間、場合によっては数日分の時間節約を実現しています。また、**4人中3人以上のプロフェッショナルが新興のAIエージェント機能の価値を積極的に活用しようとしており**、その需要と影響力は増し続けています。しかし、変革には不確実性がつきものです。セキュリティ、信頼性、互換性への懸念が根強い中、増大する業務要求に対応するために非公認ツールに頼るシャドーAIも広がっています。

こうした変革の波の中、従来の機能と組み込みAI機能の両方を使いこなすAcrobatのパワーユーザーたちは、かつてない速度、精度、効率性を実現しています。そして、ドキュメントが単に業務を記録するだけでなく、業務そのものを再構想する未来が目の前に広がっています。

法人向けAdobe Acrobat Studio

Acrobat Studioは、AIを活用してドキュメントの作成、編集、インサイト生成を実現します。
日常的なドキュメントをブランドイメージに合ったインテリジェントなコンテンツへと変換し、情報を実用的なインサイトに変えることができます。すべてがひとつのプラットフォームで完結します。

Acrobat Studioがビジネスにもたらす価値を確認する

Adobe

Copyright © 2026 Adobe.All rights reserved.

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Adobe PDFロゴ、Document Cloudは、
米国およびその他の国々におけるAdobeの登録商標または商標です。
その他すべての商標は、各権利者に帰属します。